

## 2.21 土

	講堂	第1研修室	第2研修室
10:30-11:00	企画趣旨説明		
11:00-13:30	A. 芸術の権利		
13:30-14:30	昼休み	ガスヌキカフェ	昼休み
14:30-16:00	B. 学校をつくろう1		C. 芸術の現実
16:15-17:45	D. 芸術の政治		E. 学校をつくろう2*
18:00-20:00	大討論カフェ	大討論カフェ	大討論カフェ

\*印の付いたセッションは20名限定となります。当日整理券を配付します。

\*トークセッション会場以外の展示室を含む館内施設は18時で終了となります。

## 2.22 日

	講堂	第1研修室	第2研修室
11:30-13:30	F. 社会における オルタナティブな システムの事例		G. 芸術の提案*
13:30-14:30	昼休み	ガスヌキカフェ	昼休み
14:30-16:00	H. 芸術の未来		I. 作品の マニュアルの マニュアル*
16:15-17:45	大討論カフェ	大討論カフェ	大討論カフェ

\*印の付いたセッションは20名限定となります。当日整理券を配付します。

## 2.21 土

### A. 芸術の権利 | 11:00-13:30

相馬千秋 | アート・プロデューサー / NPO法人芸術公社代表理事

藤田直哉 | 評論家

山本和弘 | 栃木県立美術館シニア・キュレーター

吉澤弥生 | 社会学者

ほか

創造力、多様性、高度なコミュニケーション能力が求められるポスト工業化の時代、国際競争、地方再生、オリンピックなど政治の主要課題が、芸術の生産にかつてない程に関与しています。このような芸術の政治化とも産業化とも言える過程で、何が起り何が変化していくのでしょうか。このセッションでは、「生活者としてのアーティストたち」と銘打たれた本イベントの出発点として、芸術家の生活実態の認識に始まり、政治、経済、教育、美学の変動を捉えることで、二日間にわたるトークセッションの争点をあぶり出すことを目的とします。

### B. 学校をつくろう1 | 14:30-16:00

伊藤亜紗 | 東京工業大学准教授

小澤慶介 | NPO法人AIT / 千代田市現代美術館チーフ・キュレーター

城一裕 | 情報科学芸術大学院大学[IAMAS]講師

平倉圭 | 横浜国立大学准教授

「作品」「制作」「美術」といった概念が絶え間なく更新されていく中で、日本の美術大学の多くは従来のジャンルによる区分けをいまだに継続しており、長年にわたって窮屈で歪んだ状態のままです。既存の学校の「構造」と美術教育の「現場」とが互いにちぐはぐでかみ合っていないように思われます。そこで、これまでの美術教育の枠を越えてこれからの方針や構造を考えるために、「新しい学校を作る」ことを目標にセッションを行います。「学校をつくろう1」では、実際の教育現場で実験的な試みを続けている若手の教育者をゲストに、現状の問題意識と実践を共有し、「新しい学校」における理想的な教育プログラムのあり方を話し合います。

### C. 芸術の現実 | 14:30-16:00

山本和弘 | 栃木県立美術館シニア・キュレーター

吉澤弥生 | 社会学者

現在、日本で開催されている展覧会において、出品作家にどれくらいのアート・フィーが支払われているのか？ その額は展覧会全体予算の何%を占めるのか？ アーティストの経済状況は実際に

のようなものなのか？このセッションではアーティスト・フィーの現状や、アーティストの経済状況を事前にリサーチし、集められた具体的な情報を閉じられた空間で限定的に開示し、ファクトに基づいた現状認識を行うことを目的とします。

### D. 芸術の政治 | 16:15-17:45

遠藤水城 | インディペンデント・キュレーター

清水知子 | 筑波大学准教授

帆足亜紀 | アートコーディネーター / 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局長

柳幸典 | 現代美術家

公共圏において芸術実践はどのようにいま再配置されるのでしょうか。アーティストの実践を経済との関係から考えれば、アートマーケット(市場)や助成金、アーティスト・イン・レジデンスなど(公的支援)によってその実践は規定され、変容しています。一方、社会との関係から考えれば、都市部での活動と地方における「地域アート」の差、弊害も問題視されています。あるいはローカルとグローバルな活動の中でさらに芸術活動はどこに向かい、誰に向き合うのでしょうか。経済と社会を軸に、公共における芸術の場所を討議します。

### E. 学校をつくろう2 | 16:15-17:45

有吉徹 | 東京造形大学学長

飯吉透 | 京都大学高等教育研究開発センター長・教授

「学校をつくろう2」では、「学校をつくろう1」で話し合われたことをふまえて、美術の教育現場や運営面の実状、最新の教育プログラムに関する研究などを見ていながら、より現実的かつ実効性のある「新しい学校」を設計していきます。

## 2.22 日

### F. 社会におけるオルタナティブなシステムの事例 | 11:30-13:30

小林晴夫 | blanClassディレクター / アーティスト

西辻一真 | (株)マイファーム代表取締役

山下陽光 | 途中でやめるデザイナー

物事の価値観や表現媒体は急速に変化し、これまで機能していた既存のシステムが新しい表現や活動に対応できない事態も少なくありません。このセッションでは、旧態依然とした厳しい環境のなかでの活動や生計を持続可能にするために発想される突破口(改善のためのアイデア、環境への適応、運用など)について、社会の根底と向き合いながら革新的な取り組みを実践する他分野のゲストを迎え、それぞれの事例を参照することで、これからの社会に合った力強い仕組みづくりに向けてのヒントを探ります。

### G. 芸術の提案 | 11:30-13:30

吉本光宏 | ニッセイ基礎研究所研究理事

今後どのような芸術に価値を見だし、どのような文化を形成していくのでしょうか？この問いに対して、実際に作品を制作しているアーティストの視点から『未来に向けての提言』を作成します。様々な地域においてアートプロジェクトが企画され、東京オリンピックに向けて様々な文化行事が企画されていく中、一定の価値観にとって都合の良い表現だけが扱われるのではなく、より多様な個々の表現活動の制作発表の場を実現するために、これからの文化行政やアート支援の一つの指針となるような方向性を、一日目の議論をふまえた上で、現場目線で練り上げることを目的とします。

### H. 芸術の未来 | 14:30-16:00

キャリア、人脈、知名度の形成前の状況にあり、文化産業の構造において一番の「底辺」に置かれ、一番の搾取の対象になりうる「若手」アーティスト達の目線から「芸術の提案」で作成された『未来に向けての提言』はどのように映るのでしょうか。本セッションでは、美術系大学大学院生、美術教育卒業から2-3年以内のアーティスト及び同程度の経歴のアーティスト20人に登壇してもらい、『未来に向けての提言』に対して徹底的な批判を行ってもらいます。提言文を今一度ふるいにかけ、より具体的かつ有効なビジョンを創造し共有することを目的とします。

## I. 作品のマニュアルのマニュアル

14:30-16:00

有元利彦 | HIGURE17-15cas代表

蔵屋美香 | 東京国立近代美術館美術課長

中川陽介 | 映像作家 / アーティスト

眞島竜男 | アーティスト

メディアの多様化により、現代では不定形あるいは非物質的な形態を持つ作品がますます増えています。そのような作品を、時代や場所、空間が変わっても作家の意図したとおりに展示し続けるためには、様々な情報の継承が必要となります。今回は、「作品を伝える」という目的を共有する作家や学芸員、技術者が、作品の「記録」や「再展示」にあたって重要となる要素を話し合い、時代に応じた作品の維持や展示の指針となるようなマニュアルのたたき台を作成します。

詳細および最新情報は、  
随時美術館ホームページ  
(www.mot-art-museum.jp)  
にてお知らせします。

## ガスヌキカフェ

杉田敦 | 美術批評家 豊嶋康子 | アーティスト

深田晃司 | 映画監督 眞島竜男 | アーティスト

ほか

ガスヌキカフェは、訪問者のガス抜きを目的としています。また、ARTISTS' GUILDの映像撮影・配信技術を活用した、会場内でおこなわれる各トークセッションの中継、そしてUstreamを使用した放送局「生計ラジオ」の併設、さらに、様々な分野から招聘した店員との小さな対話など、本企画を多角的にケアする空間として設置されます。

## 大討論カフェ

2月21日、22日ともに最後のセッションは、誰もが参加できるディスカッションの時間となります。ここではトークで出てきたトピックについて議論を詰めていきます。

## ライブ・パフォーマンス

core of bells | インビジブルハードコアバンク バンド

S E S S I O N

T A L K



ARTISTS' GUILD

参加メンバー

小泉明郎

須田真実

森弘治

池田武史

奥村雄樹

倉重迅

小林耕平

椎木静寧

田中功起

津田道子

橋本聡

藤井光

増本泰斗

森田浩彰

ARTISTS' GUILD

について

ARTISTS' GUILD(アーティスト・ギルド)は、アーティストによる、アーティストのための会員制芸術支援システムです。会員はプロフェッショナルに活動しているアーティストによって構成されます。映像を扱うアーティストに必要な不可欠な「機材」を活動の中心に据え、機材共有システムを構築します。このシステムを個々のアーティストが利用することによって、制作・展示の現場での経済負担を軽減し表現活動の幅を広げ、よりクオリティーの高い芸術作品を1つでも多く社会に産み落とすことを目的とします。新しい芸術支援の可能性をアーティスト自ら模索する社会実験の一形態です。

当館は今年3月に開館20周年を迎えます。開館以来、「創造の担い手を育む」ことをミッションの一つにかけ、若手作家の支援を行ってきました。この20年間、大型国際展やアートマーケットの活況、国内各地で開かれる芸術祭等、社会の変化とともに現代美術の状況は目まぐるしく変化してきました。それを受けて、日本のアーティストの環境は現在どのような状況にあるのでしょうか。

「ARTISTS' GUILD」は主に映像を扱うアーティストたちによって2009年に結成され、作品の制作や展示に必要な機材を共有するシステムの構築や、映像プロダクションの設立等、美術館やマーケットといった既存のシステムに一時的に依存するのではなく、社会の中で循環する仕組みを作ること、自分たちの創造性が発揮されるインフラをみずから整えようとしてきました。作り手の側から生まれてきたこの動きは、従来の芸術支援のあり方を問い直し、社会的な存在としてのアーティストを再考する契機となるかもしれません。

そこで今回は、アーティストの生活に焦点を当てます。二日間にわたる、制度、教育、政治、経済、作品の残し方等さまざまなトピックに焦点を当てた複数のトークや仮設のカフェにおける自由な議論から、日本のアーティストの現状を明らかにし、それに対して提言を試みます。

開館20周年という節目の年に、あらためてアーティストの実態を知り、いま何が必要とされているのか、彼らとともに、そして専門家や参加者とともに、一緒に考えていくことを目指します。

CONCEPT

# ARTISTS' GUILD

東京都現代美術館

開館20周年記念トークセッション

生活者としての  
アーティストたち



東京都現代美術館では

「ARTISTS' GUILD

(アーティスト・ギルド)」と

共同企画で

「アートと生活」を

テーマにした

トークセッションを

開催します。

東京都現代美術館

開館20周年記念トークセッション

# ARTISTS' GUILD

2.21 | 土 | 2.22 | 日 |

トークセッション会場以外の  
展示室を含む館内施設は  
18時で終了となります。 10:30-20:00

11:30-17:45

会場 | 東京都現代美術館 地下2階講堂, 研修室 ほか

入場料 | 無料 主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  
企画 | ARTISTS' GUILD, 東京都現代美術館

## 東京都現代美術館

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1  
TEL | 03 5245 4111 (代表)  
TEL | 03 5777 8600 (ハローダイヤル)

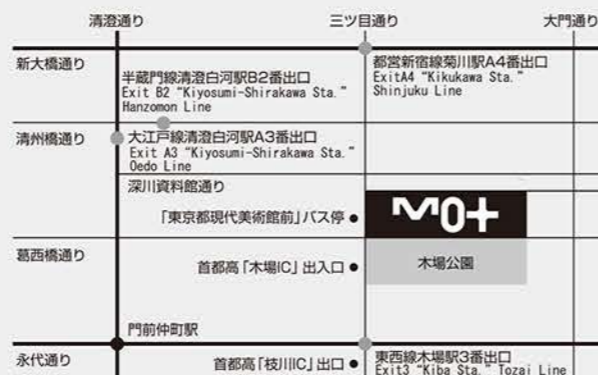
4-1-1, Miyoshi, Koto-ku, Tokyo,  
JAPAN 135-0022  
TEL | +81 3 5245 4111 (General Information)  
TEL | +81 3 5405 8686 (Hello Dial)

www.mot-art-museum.jp

## ACCESS

交通案内

- 東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分
- 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
- 東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、又は都営バスで「東京都現代美術館前」下車
- 都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、又は都営バスで「東京都現代美術館前」下車
- 「木場」「菊川」「錦糸町」「東京」「とうきょうスカイツリー」「押上」「秋葉原」「新橋」「葛西」「豊洲」駅などから都営バスでもお越しになれます。
- 詳しくは美術館HPの「アクセス」にてご確認ください



MOT+  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF ART  
東京都現代美術館

20  
YEARS  
1995-2015

ARTISTS' GUILD

生活者

としての

アーティスト

たち

T  
A  
L  
K

S  
E  
S  
S  
I  
O  
N